

とおたるけあ

第19号



日本医療機能評価機構認定病院



平成25年2月 登別地獄谷にて

新しい年を迎えて



三愛病院精神科医師
診療部長 渡邊 伸弥

新しい年を迎え、例年になく厳しい寒さが続いております。皆様、如何にお過ごしでしょうか。

近年の精神科医療に対するニーズは、統合失調症等の生物学的病理から社会心理学的病理が関与する疾患まで大変幅広くなってきています。高齢化による認知症疾患、ストレス社会、すなわち厳しさを増す生活環境がもたらすとされるうつ状態や心身症、そして依存症の増加等さまざまな症例に対応していくことが、私たちに課せられた使命であると考えています。

ープホーム等の中間施設を充実し、行政、福祉施設等の支援機関と連携し地域のネットワークを通じ、ノーマライゼーションの実現に向け地域の皆様や行政からも、西胆振地区の精神科拠点病院として評価を得ることを目標として日々、努力を重ねてまいりました。我々は、障害のある人もない人も、高齢者も若者も共に生き生きとした生活が送れるように、医療・福祉の発展のために地域の一員としての役割を果たしていく所存です。精神科医療の発展は、地域の皆様のご理解・ご協力が重要な鍵となります。誰もが安心して暮らせる街づくり、地域づくりと決して無縁なものではありません。

今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をいただきますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

地域の保健・福祉関係者の方々との交流や患者様との関わりから学び、そして強く念じたのはいち早く精神科医療に対する時代の変化を取り入れた医療体制の構築に取り組み、患者様に専門的治療を行い、地域の方々の理解で早期に地域へお返しし、地域連携で患者様の生活を支えることであります。

この思いから生活訓練施設や訪問看護ステーション、グル

訪問看護ステーションあおいのご案内

訪問看護ステーションあおい 所長 加藤 泉

訪問看護ステーションは、平成12年に開設され12年が経過しました。現在、看護師4名体制で利用者の必要に応じて週に2回から、月に1回の訪問看護を行っています。できるだけ地域生活を長く、自分らしく過ごしたいという思いを尊重し、思いやりのある対応を心がけながら、おもに健康上の管理や服薬管理、生活する上での相談や助言を行い、利用者の病状や障害の状況に合わせて、日常生活動作の維持・回復を図り利用者の生活の質の向上に向けた支援を行っています。入院生活から地域へ生活を移行された方や独居で生活に不安のある方などの相談を随時、受け付けていますので、いつでもお問い合わせください。



ステーション外観



中央が加藤所長

診療案内

	月	火	水	木	金	土
精神科	●	●	●	●	●	●
内科	●	●	●	●	●	●
心療内科					※●(月1回)	※●(月1回)
皮膚科					●	
泌尿器科			●			
眼科						※●

※心療内科・眼科については、予約制となっています。当院外来までお問い合わせ下さい。

病院理念

- 1.精神障害者と高齢者を対象に、医療・保健・福祉のトータルケアを目指します。
- 1.自然環境との調和を大切に「癒される」病院創りを目指します。
- 1.チーム医療により良質な医療と地域に開かれた機能的病院を目指します。
- 1.常に謙虚に患者様と御家族の気持ちを尊重し、心のこもった医療の提供を目指します。

基本方針

当病院は自然環境を生かし、アメニティの充実を図ると共に、精神科ではチーム医療における質の高い医療を追求しています。
法人グループの各施設がそれぞれの役割を担い、医療・保健・福祉における連携と人権を尊重し、患者様並びに御家族との相互理解を深め、地域のニーズに合った信頼される医療の提供をいたします。

患者の権利

- 一人の人間としての尊厳を尊重され、丁寧に敬意をもって扱われる権利を有する。
- 差別されることなく、公平かつ適切で良質な医療を継続して受けられる権利を有する。
- 医療に関する個人情報保護されるとともに、私的なことに干渉されない権利を有する。
- 自己に関する医療行為や医療情報に関して十分な説明を受けることができ、その上で、治療方法に関して選択できる権利を有する。
- 医療費、公的援助に関する情報や説明を受けることができる権利を有する。
- 健康や病気、保健サービスなどについて教育を受ける権利を有する。
- 医療の充実・改善をはかるために、苦情や意見を申し立てることができる権利を有する。



特定医療法人
社団千寿会 三愛病院

〒059-0493
北海道登別市中登別町24番地12
TEL (0143) 83-1111
FAX (0143) 83-1361

<直通TEL>

歯科口腔外科 (0143) 83-3991
医療福祉相談室 (0143) 83-3207
地域生活支援室 (0143) 83-3572
精神科デイケア (0143) 83-2520

<URL>

<http://www.sanai-hospital.or.jp>

<E-mail>

post@sanai-hospital.or.jp

<診療科目>

精神科・老年精神科・内科
老年内科・心療内科・消化器内科
皮膚科・リハビリテーション科・泌尿器科
眼科・歯科口腔外科・歯科

<診療時間>

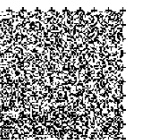
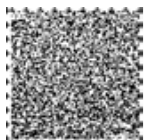
平日 午前8時30分～11時30分
午後1時～4時30分
※午後は予約となります
土曜日 午前8時30分～11時30分

交通機関のご案内



- ★交通機関
- 登別駅～バス・車で5分
 - 高速登別東インターチェンジ～約1分
 - 登別温泉街～バス・車で約7分
 - バス「三愛病院前」～下車徒歩1分

作成：三愛病院 広報委員会





室蘭市相談支援センターらん 開設にあたり

登別市総合相談支援センターen ・ 室蘭市相談支援センターらん センター長 須貝 愛

平成24年11月1日、(旧)西いぶり地域生活センターの受託事業の一部、室蘭市精神障がい者相談支援事業の運営を当該市で行うため、室蘭市内に事業所開設し、自主事業としてサロン～憩いの場～を始めました。それに伴い、旧センターも登別市総合相談支援センター en と事業所名変更し、室蘭・登別の地域生活の拠点を目指しています。相談支援は困ったことの解決だけでなく、「～したい!なりたい!」という願いを実現するお手伝いです。そして、まちで安心して暮らすためには既存の福祉サービスでは補えない人との繋がりが重要です。

サロンで輪になって語る皆さんの笑顔、そしてみんなで「～しよう!」と話し合う姿を見ているとうれしくなり、こんな風にお話したかった!と思うのです。

事業所開設にあたりまして、皆様のご理解とご協力に心から感謝いたします。そして、当法人の目指すトータルケアがその人らしい生活、人との繋がりにあることを誇りに思い、地域として出来ることを積み重ねていきたいと思っております。希望から繋がる、語り合える仲間がいる、「らん」はそんな場所でありたいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

〒051-0011
室蘭市中央町 2-7-13 室蘭中央町米塚ビル 4F
TEL : (0143) 22-3300 FAX : (0143) 22-3366



左が須貝センター長



『認知症 家族教室』を開催しました

三愛病院認知症疾患医療センター 精神保健福祉士 竹内 亮平

平成24年12月7日(金)、三愛病院では新たな試みとなる「認知症 家族教室」を開催しました。認知症の方の介護をされているご家族を対象として、認知症への理解を深めて頂くと共に、認知症との関わり方やサポート体制についてアドバイスする機会になると考え開催させて頂きました。当日は、6組のご家族、計9名の方にお越し頂きました。プログラムは、当院千葉院長より「ミニレクチャー 認知症を理解する」をテーマとして講演し、そのあとスタッフを加えた2グループに分かれ「体験交流会」の場として、日頃の介護をする上での悩みや苦労話、介護の工夫などについて意見交換が行われました。

答えがなくても認知症について同じ悩みを共有して話し合える場となれば...と考え実施しました。自分だけの問題ではなくほかの人も同じように悩みながら関わっていることを感じて頂くことで、認知症への理解や、認知症との付き合い方への理解を深めて頂ければと思っています。今後も3か月に1回のペースで定期開催する予定です。随時、開催日が決定次第、ご連絡致します。

ふるってご参加下さい。



大規模停電を経験して

管理企画課 課長 宮崎 聖

平成24年11月27日(火) 7時27分、登別市に大規模な停電が発生しました。この時は誰一人長期にわたる停電という認識はなく1時間もすれば復旧するだろうとの意見が大半を占めていました。ところが、北電に問い合わせを行い事態を確認すると状況は一変しました。1時間どころか復旧のメドがたたない状態とのことで、まずは患者様のライフラインの確保を一番に行動しました。非常用発電機から水と非常照明は使えています。ガスも大丈夫でしたが暖房が切れていました。幸い火事ではありませんので消火設備の余剰電力をボイラー機器に送電し暖房を開始しました。職員の手渡しによる食事の搬送や外来業務の混乱はありましたが、院長の指示のもと各部署が協力しあい数少ない照明の中一夜を過ごしました。翌日には北電による高圧発電機車が配備され一部を除き業務が再開できました。結果的に4日間に渡る停電となり、もし当院へ発電機車が配備されていなければと思うと身も凍る思いです。配備を決定して頂きました行政と北海道電力様には本当に感謝申し上げます。

今回の経験で千寿会の災害対策の弱点も浮き彫りとなりましたので、災害に強い千寿会となり患者様に対して、安心というサービスを提供できるように更なる努力が必要と感じております。



北電による高圧発電機車



千寿会 精神保健福祉の在り方について考える研究会主催の講演会を開催して

障がい者グループホーム アザリア・カワセミ・ヤマセミ総合施設長 高柳 誠司

平成24年11月19日(月)、登別市民会館にて「※千寿会 精神保健福祉の在り方について考える研究会」が主催となり地域住民を対象に「精神障害」をテーマとした講演会を開催しました。医療福祉相談室竹内が講師を務め「精神障がいについて～地域の中で考える～」というテーマを基に精神疾患の特性・精神障害者の実状・サポート機関の役割等について講演を行いました。当日は111名の方に参加して頂き、終了後の参加者アンケートでも「事例をもっと聞いてみたい」「具体的な対応方法をもっと聞いてみたい」等の回答が多く、地域の精神障害に対する関心の高さを改めて実感することができました。また、今回の講演会開催のコンセプトであった「情報発信で地域理解を広げる」についても一定の成果を得ることができ、「現場から地域」へ情報発信を行い精神障害の理解を促進していく組織活動の意義を改めて確認することができました。

※千寿会 精神保健福祉の在り方について考える研究会：当法人の精神保健福祉士を中心に活動しています。なにか精神障がいに関してお困りなことなどがございましたら、お気軽に下記連絡先までご相談ください。

- ・三愛病院 医療福祉相談室 TEL(0143) 83-3207
- ・登別市総合相談支援センター en TEL(0143) 86-0707
- ・室蘭市相談支援センター らん TEL(0143) 22-3300



東邦大学より医学部の実習生を受け入れました

平成24年7月17日～7月19日の3日間、ご縁があり東邦大学医学部の学生を招き、「地域精神科医療及び高齢者医療と福祉の実態を学ぶ」をテーマに当院スタッフと一緒に考え、学ぶ機会を設けることができました。実習では当院内の医師業務や当法人の併設施設を見学して頂き、西胆振圏域の精神科医療・地域医療連携の現状について担当者から説明を行い、理解を深めて頂きました。当院では、精神科医療の普及・発展の為、医学部の学生を始め、看護師、コメディカルスタッフの実習を積極的にお受けさせて頂いております。

実習生をお受けし、共に「考える」ことで、当法人スタッフも医療と福祉の原点に立ち返るきっかけとなっております。



千葉院長と一緒に



院内研究会・研修報告 第4回 院内研究会を終えて

平成24年9月14日(金)当院にて院内研究会を開催しました。今年度も、九州から福岡病院東院長を始め、コメディカルスタッフをお招きし、合計13題の演題発表がありました。当院からは看護部、地域生活支援室、リハビリテーション科、心理室、精神科デイケア、老健施設、高齢者グループホームから発表が出され、九州福岡病院の看護部、地域連携室からも発表頂きました。最優秀賞は「ガラスコーティング剤ナノコートの検証結果について」を発表した管理企画課 宮崎聖、優秀賞は「日常生活自立支援事業を利用した地域定着支援の取り組み」を発表した地域生活支援室 三戸部史織が選ばれました。様々な職種からの発表ということもあり、約150名もの職員が参加しました。フロアからも意見や質問が飛び交い活発な意見交換が行われ、今後に生かせる貴重な体験となりました。研究や研修参加から得られた知識、技能を定期的に他の職員に伝え、より質の高い医療、看護、介護を提供できるよう、病院全体のスキル向上を目指したいと思います。



日本精神科医学会学術大会

西3階病棟看護師長 原見 美智

平成24年10月9日・10日、大阪国際会議場にて開催されました、第1回日本精神科医学会学術大会に参加致しました。テーマ 精神科医療の改革とビジョン～いま私たちができることすべしこと～と題して、講演、シンポジウム、演題発表が行われました。非常に大規模な学会で日本各地から参加総数2,500名で賑やかに開催されました。全国各地の精神科医療従事者の活動報告および演題発表は参考になる事柄も多く、沢山のことを学ぶことができ貴重な経験となりました。今後も、テーマである～いま私たちができること、すべしこと～ということを常に考えながら今回得た知識を日々の業務に活かしていきたいと考えています。



日本心理臨床学会

心理療法室 臨床心理士 川村 幸大

この度、平成24年9月14・15・16日、愛知学院大学にて開催されました、日本心理臨床学会に参加して参りました。3日間の日程で、主に認知症関連、医療観察法関連、幻聴、パーソナリティ障害に関する事例などの発表を聞いて参りました。特に認知症関連においては、疾患別の検査結果の差異に関する情報が得られ、当院での業務に役立てられたいと感じた事、医療観察法関連の発表では「内省」がテーマとしてあげられ、医療観察法対象者の内省を促す難しさや、ディスカッションの場で各病院での工夫や自分と同じような苦労を抱えてらっしゃる方の話を伺い、対象者と接する上でのヒントを得る事が出来、大変有意義な機会を与えて頂きました。